

地域密着型サービスの自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営規定に明記している。イベント時など、地域ボランティアの方達との交流を図っているが、日頃はできていない。	○ 地域の方達との交流をもっと増やしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践にむけ、一部カンファレンスなどおこなっている。しかし共有できていない部分もある。	○ スタッフ間で情報の共有、理念の共有を行い、理念に添った支援を行っていきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホール内に理念を掲示している。	○ 家族、地域の方々が来苑された際、視野に入るような位置への掲示と我々スタッフが理念に添った支援を行う必要がある。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩などを行い、地域の方々と触れ合う機会を作ろうとしている。しかし、地域の方々が日頃から来苑されるまでには至っていない。	○ イベントだけではなく、地域の方と触れ合う機会を増加していきたい。そのために当苑の理念、また認知症を理解して頂く必要がある。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事の際など、地域の方々が来苑されることはあるが、苑から地域行事への参加はできていない。	○ 来苑して下さることはあっても、出向く機会がない。まず、地域との交流を図っていきたい。心肺蘇生の勉強会などを通じ、苑を理解して頂く機会を計画していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティングや、カンファレンスなどで話し合ったりしているが、取り組みには至っていない。	○	利用者の生活されていた地域に行き、交流を保てるように支援したいと思っている。特に、高齢者夫婦が、入居によって離ればなれとなり、年齢的に面会もままならない方に対しての配慮がしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の資料に基づき、改善を心掛けている。また、定期的なミーティングを行い、お互い意見を出し合い、理解しあい、自己の向上に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催予定にしているが、調整がつかず、実施できないことが多い。	○	積極的に会議を実施し、頂いた意見を運営に反映していきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険関係で相談することがある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修の案内があったときには、参加するように心掛けているが、現在対象となる利用者はいない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の研修会に参加した職員が主体となって、勉強会を行い、その中で、虐待についての話し合いも行った。	○	今後も、ミーティングなどを活用し、高齢者虐待防止関連法を学ぶ機会を設け、虐待のない環境作りに努めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、運営規定に基づき説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のケアを行う際に、聞き取るように心掛けているが、外部者へ表せる機会は設けられていない。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会があった場合には、利用者の近況報告等を行っている。また、連絡帳を作成している。利用者に異変があった場合には、その都度家族に連絡を行っている。	○ 家族への連絡帳を作っているので、定期的に記入し役立てていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見等あった場合には、ケアマネ・主任に報告を行い、必要に応じて話し合いの場を設け、サービスへの反映、実施を行っている。また、契約の際に、苦情処理窓口の説明を必ず行っている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1～2度幹部会を行い、意見交換及び現状報告等を行っている。会議において提案・決議されたことはすぐに反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況等に合わせて臨機応変な勤務調整を行っており、職員への連絡も前日までに行えるよう対応しているが、急な変更になる場合もある。	○ 勤務調整を行う場合には、なるべく早く職員に連絡が行き届くように対応していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	<p>職員の異動は、極力利用者に影響を与えないように行っていきたい。また、職員の異動があっても、ケアの質が低下しないような、職員全体のスキルアップを目指したい。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	○	<p>スタッフ同士が何でも言い合える環境作りを心掛けていきたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人またはその家族と事前に話し合える場を設け、不安な点の解決方法を話し合い、安心して利用できるよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の要望などをしっかり聞き、場合によってはこちらから訪問して利用までの事前調査を行うようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、本人と家族にとってどのようなサービスが必要なのかを見極め、最も適した支援が受けられるように努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状況に合わせて、体験入居をして頂いたり家族や職員、また、居宅のケアマネと相談しながらサービス提供するなどの工夫を行っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に対し、一方的にサービスを提供するのではなく、利用者のその日の気分や体調の変化などを察し、臨機応変な対応を心掛けている。また、本館に面した畑を通じて活動する中で、利用者から学ぶことも多い。	○ 行事など各担当者があるものの、機能していない部分がある。それをなくすため、全体的な底上げを図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日頃の状況を家族に報告することで、家族からの要望を聞いたりしている。また、誕生会、クリスマス会など、季節に応じた会を開き、スタッフ、家族で、利用者を支えていくように努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的な面会のお願いはしていないが、家族が面会に来られた際には、本人とゆっくり時間が過ごせるような雰囲気作りを心掛けている。年間行事や誕生会などには家族も参加して頂けるよう連絡を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族だけでなく、友人・知人の面会はあるが、馴染みの場所へお連れできるような支援は、現在のところ実施できていない。	○	今後は利用者の生活してきた場所との関係も考慮し、それが継続できるような支援を取り入れていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員間で情報交換を行い、利用者同士の関係を把握した上で、介入しすぎるのではなく互いに良い関係性を築いていけるような支援を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された利用者に対しては、お見舞いに行き交流をもつように心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の要望には、ゆっくりと話を聞くよう努めている。困難な場合は、本人本位になるようスタッフ間で情報を持ち寄り、利用者本位になるよう取り組んでいる。	○ 利用者一人一人の個性に合わせた生活が送れるように取り組んでいきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントで生活歴や職歴、生活環境、趣味などを聞いたりして情報を集めている。また、居宅のケアマネからのサービス利用の経過を聞き、把握するようにしている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の記録に目を通し、利用者本人を観察し、一人一人を把握するよう努めている。必要に応じて24時間シートの活用も行っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成にあたり、本人、家族の希望を聞いたうえで作成している。入居時には、受け持ちを決め、状態の把握を行い、意見を反映するようにしている。	○ 決められた時期にしかサービス担当者会議が開催できていないため、利用者の状態にあわせて、もっとケアの内容・実施方法について積極的に話し合っていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の評価を行い、利用者の状態にあわせて修正している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子を記録に残し、職員間で情報の共有を行い、よりよいケアが行えるよう活用している。	○	ケアの実践については記録されているが、結果に関して抜けている部分があるので、今後改善していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、馴染みの関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	できるだけ家族との関係を保つ事を中心に支援していくようにしている。病院受診は、家族に連れて行って頂いたりしているが、家族が連れて行けないときには、看護職員が連れていくなどの対応を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署職員による防災訓練を行ったり、行事へのボランティアの参加を要請したりといった地域資源の活用を行っている。また、民生委員の方に運営推進会議に参加していただいている。	○	具体的には、消防訓練程度しか実施できていないため、協働できる地域資源の検索を行いたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、地域の他のケアマネと連絡を取り、情報の共有を図っている。他のサービス利用には至っていない。	○	当苑では行っていない事など、他のサービスにどのようなものがあるのかを知る努力を行い、利用者のために活用していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ協働には至っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にかかりつけ医を尊重している。本人もしくは家族から要望があったときには、協力病院を紹介している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医との連携の中で行っている。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者に何らかの変化があった場合には、看護職員に報告・相談し、適切な対応が出来るよう連携をとっている。訪問診療との連携により、地域の看護職との連携を図りつつある。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院された場合、状況確認をとるようにしている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、急変時の対応について家族の意向を確認している。重度化が予想される利用者に対しては、受け入れ先の病院との連携をとり、状態悪化時の受け入れの確認を行っている。また、家族にも予測される事態について十分に説明を行っている。状態によっては、同意書を頂くようにしている。	○	本人、家族の意向を確認しながら、状態に応じた方針が共有できるように取組んでいきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人、家族の希望があれば、終末期まで苑で過ごして頂きたいと思っている。現在、訪問診療との連携をすすめていっている。	○	本人、家族が望む終末期ケアができるよう、医療機関との連携、スタッフの終末期に対する理解を深め、意識できるように終末期ケアなどの研修会に参加できるようにしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族やケア関係者の情報を元に、根気強く、また、慎重に本人と接し、本人の心労を最小限にするように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人の現在までの生い立ちを十分に把握した上で接する。スタッフ間でお互いに注意しあい、プライバシーを損なうことがないように努力している。	○	本人の立場になって考え、羞恥心を損なわないような対応、声掛けに心掛けていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日頃より、利用者の話には傾聴するよう心掛けている。そのときに、ニーズを把握し、出来る範囲で支援している。	○	買い物に行きたいなどの要望に応じることや、生活してきた場所につれて行くなど。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の得意分野や好きなことを中心とした活動内容を工夫し、その人らしい暮らしが出来るようにしている。	○	レクリエーションや活動内容が偏らないように、幅を広げて行きたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容に関しては来苑して散髪してくれる理容師に依頼しており、本人の望むお店には家族の協力がなければ連れて行くことが出来ない。苑に口紅を準備しており、時々希望される方には、自分でつけて頂いたり、職員がつけてあげたりしている。	○	なじみの理、美容室につれていくなどの取り組みをしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	レクリエーションの幅を広げ、もっと充実させていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	定期的に家族よりお金を預かり、買い物などに行った際、本人の希望に応じ、食品や衣類などを購入していただいている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日というわけではないが、畑に出て野菜の収穫を行ったり、買い物やドライブに出かけたり、散歩をしたりといった支援を実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力が得られる方に関しては、行きたいところに外出することが出来ているが、一人一人の希望に応えることは出来ていない。	○	施設からの支援では対応しきれない場合、家族ともしっかり話す機会を作り、協力を依頼して利用者それぞれの希望に応えられるよう進めていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族に電話し話すことが出来るよう支援している。	○	年賀状や季節に応じた絵はがきなどを書いて出せるように支援して行きたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	誰でも気軽に訪問できるような雰囲気作りを心掛けており、楽しくゆっくり会話出来るように工夫している。また、入居時の説明の際にも、泊まって頂いたり、食事を一緒に食べていただいてもかまわないことを伝えるようしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての勉強会を行い、全職員が理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	新入職員が入職した際には、その都度身体拘束廃止についての勉強会を行っていききたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>応急救護の訓練を定期的に学び、再確認できる機会を設け、冷静な判断・対処が行えるよう備えておきたい。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>マニュアルの作成内容をもう少し具体的にしていきたい。また、様々な訓練を定期的に行うとともに、地域の方への協力をよびかけていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスク対応について家族への説明や相談を行い、行動を抑制せずに回避できるような対応を考え、支援を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルを測定し、体調の変化の早期発見に努め、変化のあった際には速やかに看護師へ報告し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は看護師がセットを行っており、個人の内服薬が一目瞭然にわかるようなファイルを作成しているが、全職員が薬の目的、副作用等把握出来ているわけではない。しかし血圧の高い方や服薬内容に変更のあった方などに関しては、申し送りノートなどを活用し、様子観察を行い記録を残すように取り組んでいる。	○	ミーティングなどを利用し、薬の目的、副作用などの勉強会をしていきたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘を及ぼさないため水分を多めに摂取して頂くよう利用者へ促し、日中の運動、腹部のマッサージ、便の性状観察をおこなっている。食事のメニューに関しても偏らないように心掛けている。また、受診の際に緩下剤を処方をして頂くなどの対応を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人一人洗面台へ誘導し、口腔ケアを行っている。夕食後には、義歯使用の方は入れ歯洗浄剤に浸け、口腔内・義歯共に清潔に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を毎日記録し、必要な栄養を摂取できているか配慮している。利用者の状態の変化に応じて水分摂取量のチェックを行ったり、食事形態を変えるなどの工夫も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	外出から帰った際には、手洗い・うがいを行っている。また、食前・おやつ時にも行っている。	○	感染防止、対策のマニュアルを作成していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の拭き掃除、まな板、三角コーナー等、一日の終わりにハイター消毒を行っている。食材に関しては賞味期限内に使用している。食器は、洗浄後必ず、乾燥機にかけて乾燥させるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	苑の周辺に花壇を作ったり、プランターをかざったりするようにしている。チャイムが鳴ったときには、すぐに対応できるようにしており、面会者が帰られるときには、利用者と玄関まで送れるようにバリアフリーとなっている。	○	清掃の徹底に心掛け、気持ちよく出入りできる環境の整備を行っていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間、トイレは特に利用者が不快な思いをしないよう掃除を心掛けている。食卓や玄関には花を飾ったり居心地の良い環境作りを行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや畳を置き、他の利用者や面会者との会話を思い思いに出来るような工夫をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には本人が家で使用していた使い慣れた家具 や寝具を持ち込んでもらっている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>日中暖かい時間に換気をし、温度差がないよ うにしている。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している</p>	<p>ホール内は手すりが設置してあり段差の ない設備になっている。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している</p>	<p>自分で出来ることは出来るだけ自分 でするように見守りの中支援を行って いる。出来ない場合は一つ一つ説明 し、時間がかかってもすこしずつし てもらうように促している。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんだり、活動できるように活かし ている</p>	<p>10時、3時のおやつの時間を利用し、 東屋にて過ごしたり、隣の畑で野菜 の収穫をしたりといった活用を行 っている。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームとして集団で生活することの利点を生かしつつも、利用者それぞれのペースで生活できるように支援を行っている。毎日様々なレクリエーションを行い、機能訓練や楽しみを持って生活できるように支援しているが、中でも隣接した畑に出たの野菜収穫などは、皆さん生き生きとした表情で取り組まれている。そこで収穫した野菜を調理して提供しているが、これも好評である。